

生命を生み出す母親は 生命を育て 生命を守ることを望みます

2018年  
第61回

# 山梨県母親大会

第21回中巨摩地域母親集会

見つめなおそう・人権ってなんだろう  
～憲法をとおして生命と未来を語ろう～

◎日時：9月17日(祝)

午前9時45分～12時 全体会・講演  
午後1時～4時 分科会

◎会場：甲斐市双葉ふれあい文化館 (地図は裏にあります)

きょう のぶこ  
姜 信子さん

記念講演



わすれられない命の詩  
～ハンセン病を生きた詩人からのメッセージ～

ハンセン病を生き抜いた詩人笹雄二は、みずからを人間の世界から追放された鬼と呼んでいました。一匹の鬼として、鬼を生み出したこの世界とたたかってきました。遠い昔から、鬼をつくりだすのは、この世の中心に立つ、いわゆるこの世の勝者とされる者たちです。

そして、遠い昔から、闇の世界に追いやられた鬼たちこそが、その闇の中で新しい世界を創り出す言葉を生み出してきたのです。

それを私たちは詩と呼び、歌と呼び、文学と呼び、思想と呼んできたのです。

さあ、けっして忘れてはならない闇からの声に、一緒にじっと耳を澄ませてみませんか。私たちがその声をしかと聴いたとき、闇は明日への光と変わるのですから。

【参加協力券】 前売券 500円 (当日券 700円)

【保 育】 9月5日までにFAXで申し込んでください

主 催 山梨県母親大会実行委員会

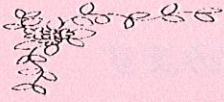
TEL 055-226-5334

FAX 055-226-5364

〒400-0031 甲府市丸の内2-25-19

平和が脅かされそうな現在、私達は立ちどまってはいられません。  
第六十一回山梨県母親大会は、中巨摩で開催します。  
お母さんも女性も男性も若者も中巨摩に集い、大いに語りましょう。





きょう の ぶ こ

# 姜 信子さん プロフィール

1961年横浜市生まれ。作家。85年東京大学法学部卒業。86年に「ごく普通の在日韓国人」でノンフィクション朝日ジャーナル賞受賞。著書に「日韓音楽ノート」「ナミイ!八重山のおばあの歌物語」(いずれも岩波書店)「棄郷ノート」(作品社)「今日、私は出発する ハンセン病と結び合う旅・異郷の生」(解放出版社)「生きとし生ける空白の物語」(港の人)「平成山椒大夫 あんじゅ、あんじゅ、さまよい安寿」(せりか書房)「声 千年先に届くほどに」(現代説経集)(ぶねうま舎)。編書に「死ぬふりだけでやめとけや・笹雄二詩文集」(みすず書房)がある。他に著書多数。

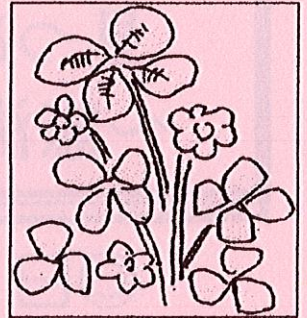
## 《ハンセン病との出会いについて》～高史明さんとの対談「邂逅」より～

「私はこれまで私の中のいろいろな問いへの答えを探すような気持で、あちこちを旅してきました。在日であることを出発点に、在日と同じような境遇にある中国の朝鮮族や旧ソ連の高麗人に会いに行ったり、そうこうするうちにコリアンだけにとどまらず、移民・難民、いわゆる「旅を生きる者たち」を追いかけはじめて、そうして旅してゆく先々でハンセン病の問題に出あうことになったんです。ハンセン病の問題をめざして歩いていたのではなくて、自分が歩いていく道々の風景の中にハンセン病の人々がいたわけです。

そして、ふっと気づいたのですね。そうか、療養所もひとつの植民地だったのだなと。療養所の在日の方々にお話をうかがって、なおいっそうその思いを強くしました。

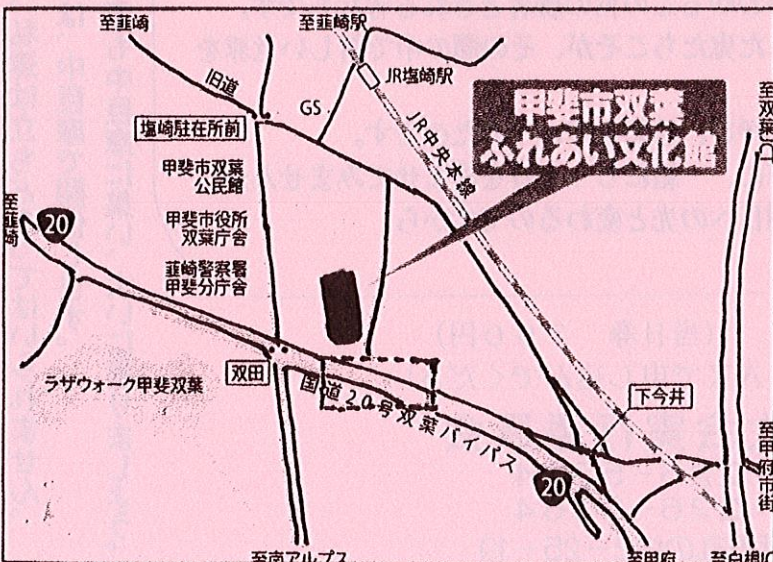
植民宗主国と植民地。支配する者とされる者。ひとつの社会を支えるために、その社会の外で生きることを強いられ、社会の外に囲い込まれていく者としての植民地の民……。

つまりは、そういう部分で、明確に意識していたわけではないのですが、在日という出自を持つ私は、療養所に生きることを強いられた人びとと触れ合うところがあったのだろう、だから 療養所を訪ね歩くことにもなったのだろうと思ひますのです。」



### 分科会

- 1 人権ってなんだろう — 冤罪・セクハラ・パワハラ・過労死 —
- 2 賢くらしを生きる — 環境・エネルギー・資源 —
- 3 障がいのある子どもない子ども豊かな発達を
- 4 政治を考えよう — 憲法・選挙・格差社会 —
- 5 社会保障を考える — 介護・医療・年金 —

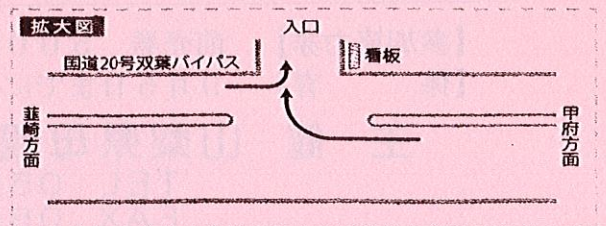


### 会場図

世界中の子どもたちに  
戦争はなく平和を!



●甲斐市下今井230  
☎0551-20-3660



JR中央線塩崎駅下車徒歩3分/甲斐市役所双葉庁舎南